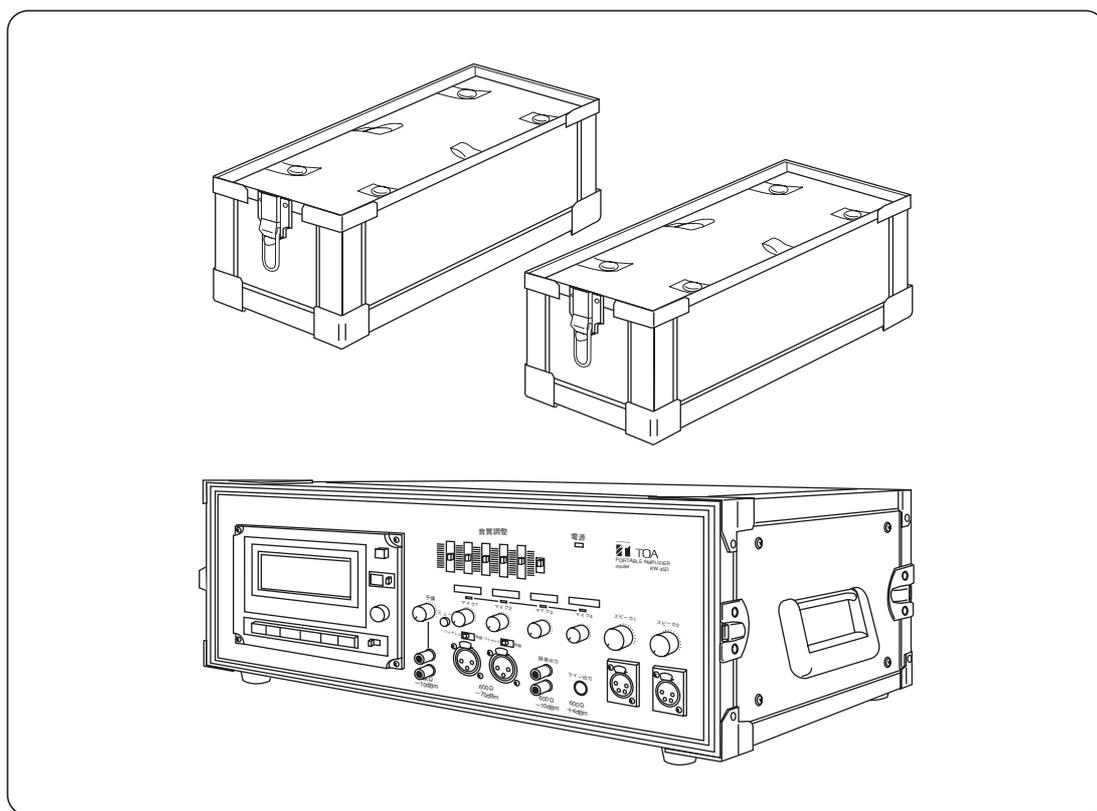


## 移動用PAアンプセット

## KZ-45D



### 目次

安全上のご注意 .....	2	ワイヤレスチューナ	
概要 .....	5	ユニットの取り付けかた .....	14
特長 .....	5	周波数の設定のしかた .....	15
各部の名称とはたらき .....	5	接続のしかた .....	15
マイクの使いかた .....	7	ブロックダイアグラム .....	18
カセットデッキの使いかた .....	9	仕様 .....	19
		寸法図 .....	20

このたびは、TOA移動用PAアンプセットKZ-45Dをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

# 安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに保存してください。

## 絵表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。  
内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例



⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

# 警告

## 設置・据付をするとき

- 本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。  
火災・感電の原因となります。



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。  
火災・感電の原因となります。



- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。  
火災・感電の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- 本機の通風孔やカセット挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。  
火災・感電の原因となります。



## 警告

### 使用するとき

- 本機の上に水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。  
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。  
万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



電源プラグをコンセントから抜け

- 本機を改造しないでください。  
火災・感電の原因となります。



- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。  
コードが破損して、火災・感電の原因となります。  
万一、電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。



- 本機のACアウトレットが供給できる電力は製品に指定されております。接続する装置の消費電力の合計が指定ワット数を超えないようにしてください。  
火災の原因となります。



- 煙が出ている、変なおいや音がする、キャビネットを破損したなどの異常状態で使用しないでください。  
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。  
すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



## 注意

### 設置・据付をするとき

- 湿気やほこりの多い場所、直射日光の当たる場所や熱器具の近くなどに置かないでください。  
火災・感電の原因となることがあります。



- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。  
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。  
必ずプラグを持って抜いてください。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。  
感電の原因となることがあります。



# ⚠ 注意

## 設置・据付をするとき

- 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線など外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



## 使用するとき

- 電源を入れる前には、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力傷害などの原因になることがあります。



- 本機の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

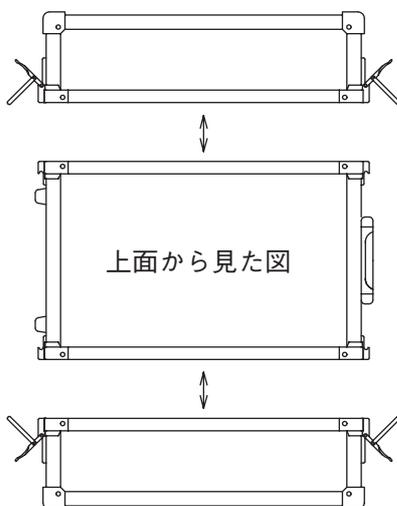


- 長期間、本機をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



## ■ 収納部の脱着

横に置いた状態で、左右のパチン錠を外してください。  
縦に置いた状態で外すと、下側のパチン錠を壊すおそれがあります。



## 概要

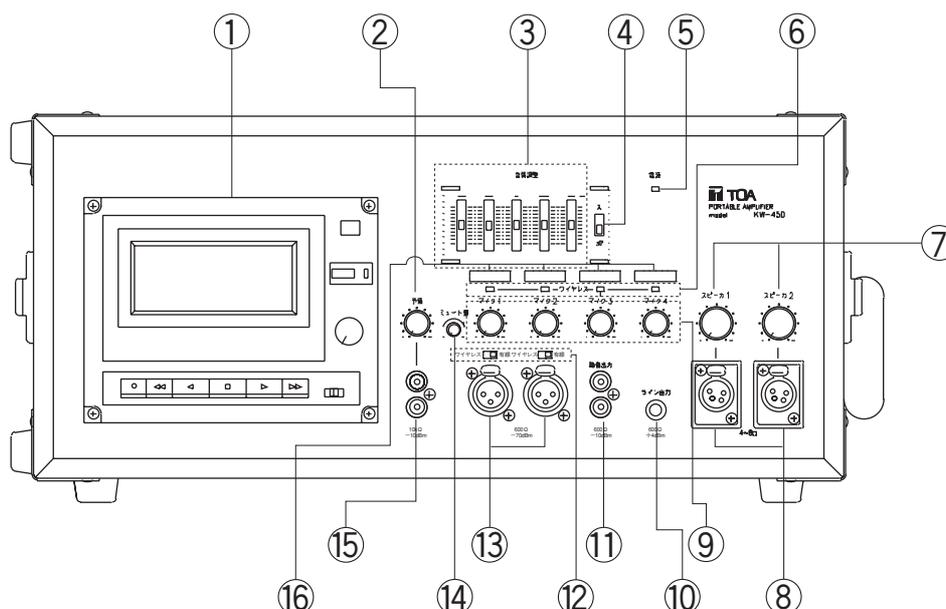
キャリングケースに、アンプ、有線マイク、ワイヤレスマイク、卓上マイクスタンドなどを収納した移動用PAアンプセットです。

## 特長

- 1つのキャリングケースの中に、アンプ、マイク、コード、スタンドなどがセットになっているため、持ち運び、保管が簡単です。
- ワイヤレスマイクは、別売の2本を含め最大4本まで同時に使用できます。
- 細かい音質調整ができる5ポイントの音質調整機能付きです。
- マイク音声によって、カセットと予備入力の音量が自動的に下がるミュート機能が付いています。
- マイク入力に過大入力があったときに歪を抑制するリミッタ機能が付いています。

## 各部の名称とはたらき

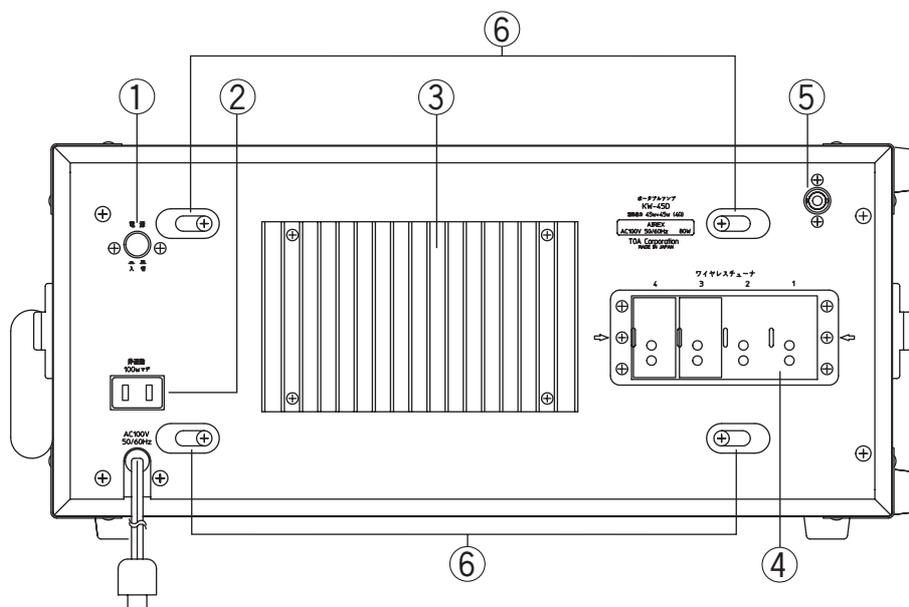
[前面]



- |   |   |
|---|---|
| <p>① カセットデッキ<br/>ご使用方法は、9ページの「カセットデッキの使いかた」をご覧ください。</p> <p>② 予備音量つまみ<br/>予備入力端子に接続した機器の音量を調節します。</p> <p>③ 音質調整つまみ<br/>5ポイントの周波数のレベルを変化させます。十側につまみを動かすとその周波数の帯域が強調され、一側に動かすと減衰します。</p> | <p>④ 音質調整スイッチ<br/>「入」にすると、音質調整つまみによって音質の調整ができます。「切」にすると、つまみの位置にかかわらず平坦な音質特性になります。</p> <p>⑤ 電源表示灯<br/>電源が入ると緑色に点灯します。電源スイッチは後面にあります。</p> <p>⑥ ワイヤレスマイク受信表示灯<br/>ワイヤレスマイクからの電波を受信すると橙色に点灯します。</p> |
|---|---|

- ⑦ **スピーカ音量つまみ**  
スピーカ接続端子に接続したスピーカの音量を調節します。
- ⑧ **スピーカ接続端子**  
スピーカと接続してください。4～8Ω対応です。ピンNo. 3と4が＋、ピンNo. 1と2がーです。＋とーを短絡すると、保護回路がはたらいで出力がでないようになっています。そのときは、原因を取り除いてから電源を入れなおしてください。
- ⑨ **マイク音量つまみ**  
マイクの音量を調節します。マイク3、マイク4は、ワイヤレスマイクの音量を調節します。マイク1、マイク2は、有線マイクの音量を調節します。  
別売のワイヤレスチューナユニットとワイヤレスマイクを購入されますとワイヤレスマイクの音量を調節することもできます。  
そのときは、⑫ワイヤレス／有線切換スイッチをワイヤレス側に切り換えてください。
- ⑩ **ライン出力端子**  
アンプを増設したいときなどは、この端子を別のアンプの入力に接続します。
- ⑪ **録音出力端子**  
テープレコーダの録音入力端子に接続します。
- ⑫ **ワイヤレス／有線マイク切換スイッチ**  
マイク1、マイク2でワイヤレスマイクを使用するときは、ワイヤレス側にします。(ワイヤレスチューナユニット、ワイヤレスマイクは別売です)
- ⑬ **有線マイク入力端子**  
付属の有線マイクと接続します。
- ⑭ **ミュート量調節つまみ**  
マイク入力によりカセットおよび予備入力の音量が下がる量を調節します。詳しくは8ページの「ミュート機能について」をご覧ください。
- ⑮ **予備入力端子**  
CDデッキ、カセットデッキなどの出力端子と接続します。
- ⑯ **カラーマーク貼り付け位置**  
装着したワイヤレスチューナユニットのカラーマークを貼り付けます。  
別売ワイヤレスチューナユニットを、後面の挿入口にセットしたときは、付属のシールをこの場所に貼ってください。

[後面]



- ① **電源スイッチ**  
押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。
- ② **ACアウトレット（非連動）**  
電源スイッチの「入」、「切」に関係なく、他の機器の電源コンセントとして使用できます。  
ただし、接続できる機器の消費電力は、100W以下です。

③ 放熱板

使用中は熱くなりますので、注意してください。放熱板と壁との間は10cm以上の間隔を空けてください。

④ ワイヤレスチューナユニット挿入口

ワイヤレスチューナユニットを増設するときは、カバーをとってワイヤレスチューナユニットを取り付けます。詳しくは14ページの「ワイヤレスチューナユニットの取り付けかた」をご覧ください。

⑤ ワイヤレスアンテナ接続コネクタ

付属のワイヤレスアンテナまたは別売の800MHz帯ワイヤレスアンテナ（YW-520, YW-550など）と接続してください。

⑥ コードハンガー

機器を使用しないときに電源コードを巻き付けます。

## マイクの使いかた

### ■ 有線マイク

1. 有線マイクに付属のマイクコード（10 m）を接続します。
2. ワイヤレス／有線切替スイッチを「有線」側にします。
3. 有線マイク入力端子1または2にマイクコードのプラグを差し込みます。
4. マイク音量つまみ1または2で、音量を調節します。全体の音量は、スピーカ音量つまみで調節します。

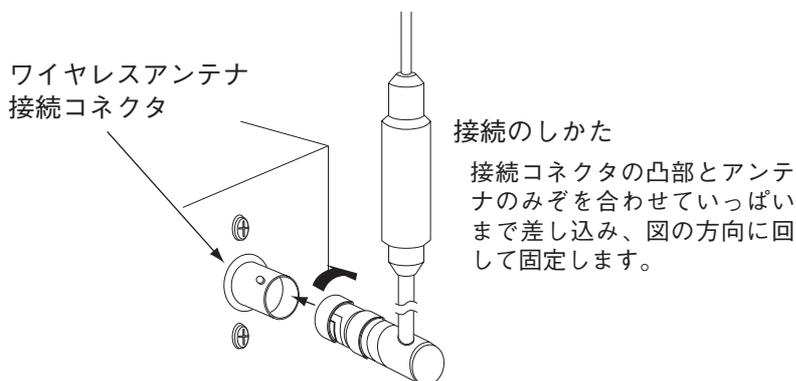
### ■ ワイヤレスマイク

- 付属品のワイヤレスマイクはあらかじめ次のように設定されています。

	グループ・チャンネル番号	カラーマーク
マイク3	B 4 1	茶
マイク4	B 4 2	赤

- ワイヤレスマイクの詳しい説明は、別冊のワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

1. 付属のワイヤレスアンテナまたは800MHz帯ワイヤレスアンテナを後面のワイヤレスアンテナ接続コネクタに接続します。付属のアンテナは垂直に立てます。



2. ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にします。
3. ワイヤレスマイク受信表示灯の点灯を確認し、マイク音量つまみで音量を調節します。全体の音量は、スピーカ音量つまみで調節します。

#### デッドポイントについて

ワイヤレスマイクを移動しながら使用する場合や、ワイヤレスマイクとアンプの間に障害物などがある場合、電波の反射や干渉によって急に音がとぎれる場所があります。これをデッドポイントといいます。デッドポイントを避けるためには、次の方法が有効です。

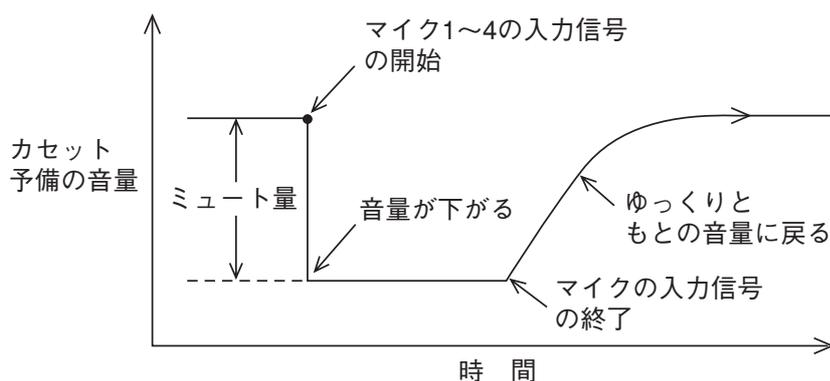
- アンプはワイヤレスマイクから見える範囲で、できるだけ高い位置（1～2 m）に設置する。
- 付属アンテナより高感度の別売の外付けアンテナ（YW-5 2 0，YW-5 5 0 など）を使用する。
- アンプは金属製の構造物からできるだけ離す。

#### ご注意

- アンプは蛍光灯、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して設置してください。
- ワイヤレスマイクとアンプの距離は3m以上離してご使用ください。3m以内でご使用になると雑音を発生したり、混信の原因になることがあります。

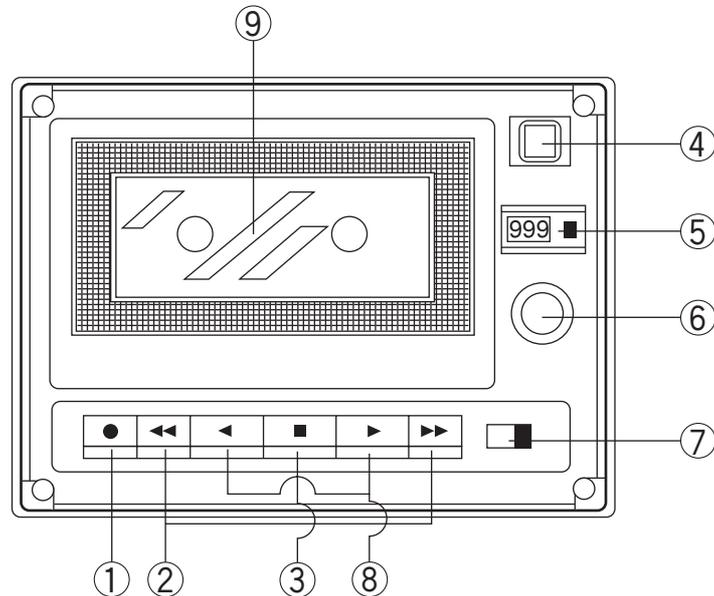
## ■ ミュート機能について

本機には、マイク1～4の入力信号によって、カセット、予備入力の音量が自動的に下がり、信号がなくなるとゆっくりともとの音量に戻るミュート機能が付いています。ミュート量（音の減衰量）は、ミュート量調節つまみで調節します。



# カセットデッキの使いかた

## ■ 各部の名称とはたらき



- ① 録音ボタンおよび録音状態表示灯 (●)  
このボタンを押すと録音状態となり、録音状態表示灯が赤色に点灯します。(●)  
録音状態表示灯が点灯してから走行ボタンを押すと録音が始まります。詳しくは11～12ページをご覧ください。
- ② 早送りボタン (⏩/⏮)  
このボタンを押すと矢印の方向に (⏩または⏮) テープが早送りされます。
- ③ 停止ボタン (■)  
このボタンを押すとテープの走行が停止します。
- ④ 取り出しボタン (▲)  
このボタンを押すとカセットホルダが開き、カセットテープの出し入れができます。
- ⑤ テープカウンタおよびリセットボタン  
リセットボタンを押すとテープカウンタの数字が **000** になります。
- ⑥ テープ音量つまみ  
テープ再生時の音量調節用つまみです。
- ⑦ テープ走行モードスイッチ  
テープ走行のモードを切り換えるスイッチです。3つのモード (→、←、↻) から1つを選択します。詳しくは12ページをご覧ください。
- ⑧ 走行ボタンおよび走行方向表示灯 (▶/◀)  
このボタンを押すと矢印の方向 (▶または◀) にテープが走行し、再生・録音が始まります。このとき走行方向を表示する表示灯 (▶または◀) が緑色に点灯します。
- ⑨ カセットホルダ

### ご注意

テープ走行中にこのボタンを押すとテープが傷つくことがありますので、テープの取り出しの際は停止ボタンを押し、テープの停止を確認してからこのボタンを押すようにしてください。

## ■ 再生のしかた

1.

取り出しボタン(▲)を押し、カセットテープを入れます。

カセットテープはテープの見える面を下にして入れてください。

2.

テープ走行モードスイッチで走行モードを選択します。

走行モードについては12ページをご覧ください。

3.

希望する方向の走行ボタン(◀または▶)を押します。

これよりテープが走行を開始し、走行表示灯が点灯し(※または※)、テープがどちらの方向に走行しているかを表示します。

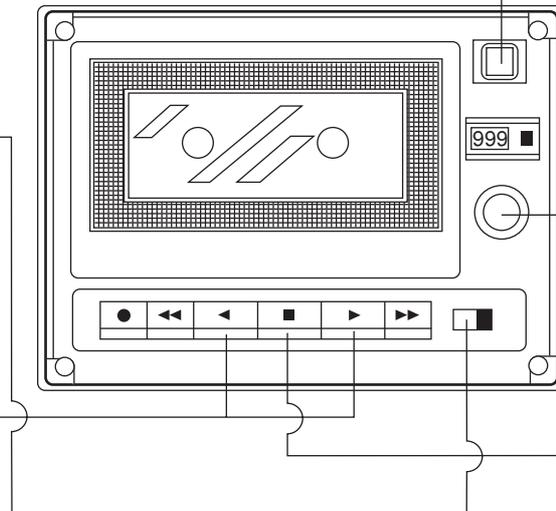
4.

テープ音量つまみを調節し、お好みの音量にします。

5.

再生を止めるときには停止ボタン(■)を押してください。

テープ走行が停止します。



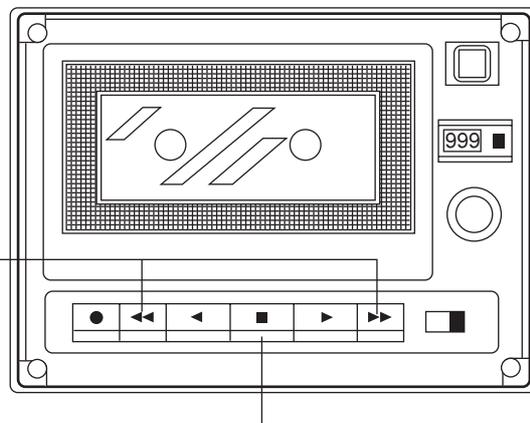
## ■ 早送り (巻戻し) のしかた

1.

希望する方向の早送りボタン(◀◀または▶▶)を押してください。

5.

早送りを中止したいときは停止ボタン(■)を押しますと、テープ走行が停止します。



- テープが停止、走行しているときでも早送りボタンを押すと、早送り状態になります。
- 録音中に早送りボタンを押すと録音が中止され、早送り状態になります。
- テープエンドまで早送りすると、自動的に停止状態になります。

## ■ 録音のしかた

カセットデッキ部にはAGC付録音回路を内蔵していますので、録音レベルの設定といった面倒な操作を必要とせず、放送の内容が簡単に録音できます。

AGC：Auto Gain Control（オートゲインコントロール）

### 1.

取り出しボタン(▲)を押し、カセットテープを入れます。

カセットテープの見える面を下にして入れてください。

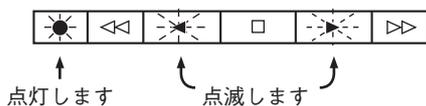
### 2.

テープ走行モードスイッチで走行モードを選択します。

走行モードについては12ページをご覧ください。

### 3.

録音ボタン(●)を押し、録音状態表示灯が点灯し、走行方向表示灯が点滅します。



#### ご注意

カセットテープの誤消去防止用ツメが折れているときは、録音状態表示灯が点灯しなかったり、走行方向表示灯が片方しか点滅しないことがあります。

- ツメが1本おられているとき  
録音状態表示灯……点灯  
走行方向表示灯……片方のみ点滅
- ツメが2本共おられているとき  
録音状態表示灯……点灯せず  
走行方向表示灯……両方とも点滅せず

走行方向表示灯が片方のみ点滅しているときは、点滅している表示灯の示す方向が録音可能な方向です。

### 4.

希望の方向の走行ボタン(◀または▶)を押し、

録音が始まり、走行表示灯が点滅から点灯にかわり、録音中であることを示します。

録音の前にテープカウンタのリセットボタンを押し、000の状態にしておくか、テープカウンタの数字をメモしておく、録音終了後に録音した位置を簡単に知ることができます。

### 5.

録音を中止するときには停止ボタン(■)を押し、録音が中止され、テープ走行が停止します。

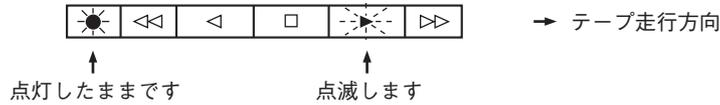
#### ご注意

- 録音は入力されている音がすべてミキシングされて録音されます。
- テレビ、ラジオ放送、レコード、CDなどから録音したものは個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

## ■ 同じ方向に続けて録音したいとき

- 録音中に録音ボタン（●）を押すと録音待ちの状態になります。

このとき録音状態表示灯は点灯したまま、そのときのテープの走行方向を示す走行方向表示灯は点滅します。



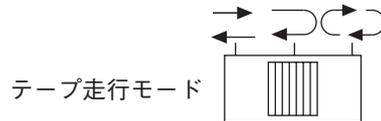
- 再度録音を開始するときは点滅している走行方向表示灯の走行ボタンを押します。走行方向表示灯が点滅から点灯にかわり、録音が再開されます。上記の1.～2.の動作を繰り返すことにより、同じ方向に録音していくことができます。
  - ▶ 方向録音中に録音方向を ◀ にしたいときは、録音ボタンを押して録音待ちの状態にし、◀ 走行ボタンを押してください。
  - ◀ 方向録音中は録音方向を ▶ 方向に変更できません。

## ■ 走行モードについて

本機はテープ走行の順序に3つのモードを用意しています。

- 「▶」一方向モード …………… 片道の再生や録音をして停止します。
- 「◀▶」往復モード …………… 往復の再生や録音をして停止します。
- 「◀▶▶」エンドレスモード …………… 連続して再生をします。  
ただし、録音ときには「◀▶」と同じ動作となります。

テープ走行モードスイッチにより希望する走行モードを選択します。



以下の表はテープ走行モードスイッチと走行ボタン操作による動作を示しています。

### ● 再生のとき

走行モード	操作ボタン	動作
▶	▶	1. [▶] → 2. [▶] テープ走行 ▶ → テープエンドで停止
▶	◀	1. [▶] → 2. [▶] テープ走行 ▶ → テープエンドで停止
◀▶	▶	1. [▶] → 2. [▶] ↓ テープ走行 ▶ → テープエンドで自動反転 4. [▶] → 3. [▶] ← テープエンドで停止 ◀ テープ走行
◀▶	◀	1. [▶] → 2. [▶] テープ走行 ▶ → テープエンドで停止

走行モード	操作ボタン	動作
▶	▶	1. [▶] → 2. [▶] ↓ テープ走行 ▶ → テープエンドで自動反転
◀▶	▶	1. [▶] → 2. [▶] ↓ テープ走行 ▶ → テープエンドで自動反転 4. [▶] → 3. [▶] ← テープエンドで自動反転 ◀ テープ走行
◀▶	▶	1. [▶] → 2. [▶] ↓ テープ走行 ▶ → テープエンドで自動反転 4. [▶] → 3. [▶] ← テープエンドで自動反転 ▶ テープ走行

### ● 録音のとき

走行モード	操作ボタン	動作
▶	● ▶	1. [▶] → 2. [▶] テープ走行 ▶ → テープエンドで停止
▶	● ▶	1. [▶] → 2. [▶] テープ走行 ▶ → テープエンドで停止
◀▶	● ▶	1. [▶] → 2. [▶] ↓ テープ走行 ▶ → テープエンドで自動反転 4. [▶] → 3. [▶] ← テープエンドで停止 ◀ テープ走行
◀▶	● ▶	1. [▶] → 2. [▶] ↓ テープ走行 ▶ → テープエンドで自動反転 4. [▶] → 3. [▶] ← テープエンドで停止 ◀ テープ走行
◀▶▶	● ▶	1. [▶] → 2. [▶] テープ走行 ▶ → テープエンドで停止

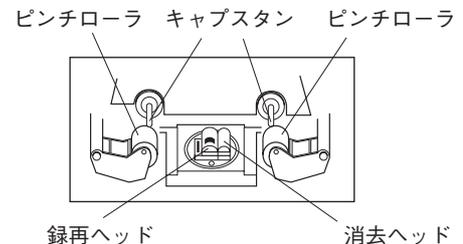
## ■ お手入れのしかた

### 1. ヘッド、キャプスタン、ピンチローラの清掃

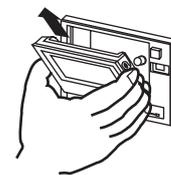
- カセットデッキを長時間使用しますと、ヘッド、キャプスタン、ピンチローラが汚れ、音が小さくなったり、高音が出なくなったり、回転ムラが起ったりすることがあります。
- 定期的に市販のクリーニングテープでクリーニングするか、アルコールを含ませた綿棒で清掃してください。

#### ご注意

ドライバの先や金属棒などは絶対に使用しないでください。



綿棒で清掃する場合は、本体の電源スイッチを切り、右図のようにカセットホルダを上にもずらして行ってください。



### 2. ヘッドの消磁

- カセットデッキを長時間使用しますとヘッドが磁気を帯び、大切な録音内容に雑音が入ったり、消えてしまったりすることがあります。
- 市販のヘッドイレーサを用いて、定期的にヘッドの消磁を行ってください。
- ヘッドにイレーサ以外の金属物や磁石を近づけないでください。
- カセットデッキの機構部に注油しますと故障の原因となります。絶対に注油しないでください。

## ■ カセットテープについて

- 本機はノーマルテープ専用です。  
クロムテープやメタルテープは使用しないでください。  
ノーマルテープ以外をご使用になりますと聞きづらい音になったり、録音するとき前の音が消えないことがあります。
- ドルビーなどの雑音低減回路を入れて録音されたテープを再生すると、聞きづらい音になることがあります。  
雑音低減回路を入れずに録音されたテープをご使用ください。
- C-120テープは使わないでください。  
テープが非常に薄く弱いため回転部に巻き込むことがあります。C-46, C-60またはC-90などをご使用ください。
- テープはたるみをとってからご使用ください。  
たるんだままお使いになりますと、テープが切れたり巻き込むことがあります。もしたるんでいたら鉛筆などでたるみをとってください。
- カセットテープの保管場所にご注意ください。  
直射日光の当たる所、暖房器具の近くなどの温度の高い所、湿気の多い所、またはテレビやスピーカの近くなど磁気のある所での保管は避けてください。テープが変質したり、録音が消えたり、雑音が入ることがあります。
- カセットテープの誤消去防止について  
カセットテープには大切な録音内容を間違えて消去してしまわないように誤消去防止ツメがついています。  
録音した音を消したくないとき、ツメをドライバの先などで折ってください。  
また、カセットテープのツメが折られていると再録音ができません。  
ツメが折られているテープに録音したいときにはセロハンテープなどを貼ってください。

# ワイヤレスチューナユニットの取り付けかた

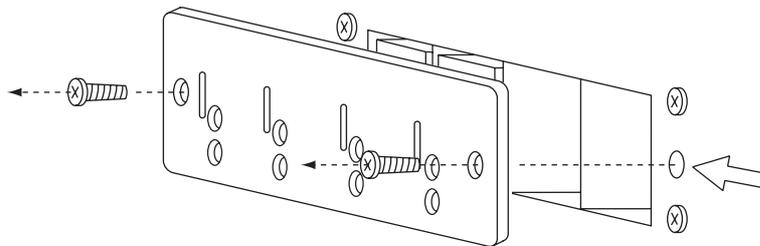
本機は、別売のワイヤレスチューナユニットとワイヤレスマイクを2セット追加することにより、最大4本のワイヤレスマイクを同時に使用できます。

## ご注意

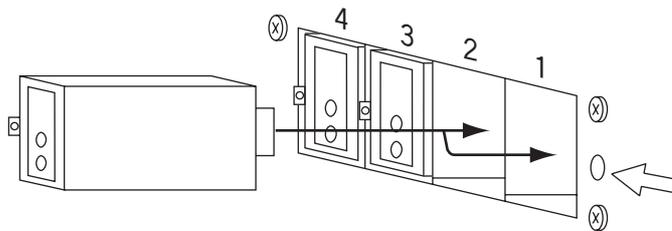
マイク1、2は、有線マイク、ワイヤレスマイク切換式ですので、ワイヤレスマイク使用時は、有線マイクは使用できません。

チューナユニットは、WTU-1710 (PLLシンセサイザ方式シングルチューナユニット) をご使用ください。ワイヤレスマイクは、800 MHz帯ワイヤレスマイク (WM-1210, WM-1310など) をご使用ください。

1. 電源を切ります。
2. 後面のワイヤレスチューナユニット挿入口のカバーを外します。  
矢印のついた2本のねじを外してください。



3. チューナユニットを図のように挿入し、コネクタを奥までしっかりと差し込みます。  
チューナユニットは、方向性があります。方向を間違わないように挿入してください。



4. チューナユニット装着後は、カバーをもとどおりに取り付けます。  
機器内に金属が入ると、感電や故障の原因となることがありますので、必ずカバーを取り付けてください。
5. 15ページの「周波数設定のしかた」に従って、チューナの周波数を設定してください。
6. チューナユニットに付属しているカラーマークを、アンプ前面のカラーマーク貼り付け位置に貼ります。  
ワイヤレスチューナユニット挿入口の番号とマイクの番号を合わせます。

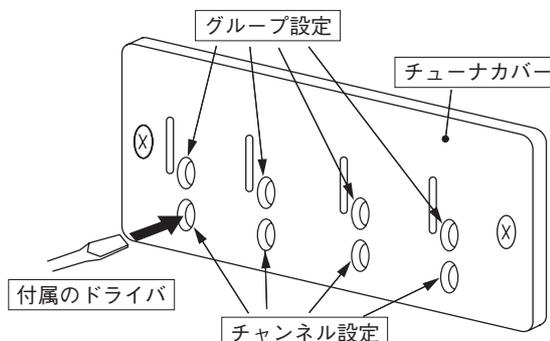
## ご注意

購入時に取り付けられているワイヤレスチューナの周波数は、B 4 1とB 4 2に設定されています。特に混信などがなくて、周波数を変更する必要のないとき、追加するチューナの周波数は、B 4 3, B 4 4, B 4 5, B 4 6から選んでください。

# 周波数の設定のしかた

ワイヤレスマイクを使用中に混信妨害が発生したときは、周波数の変更で対策が行なえます。

1. 電源を切ります。
2. チューナユニットのグループとチャンネル番号を設定します。  
付属のドライバを、チューナカバーの穴に通し、グループとチャンネル番号設定スイッチの矢印を設定したい番号に合わせます。



## ご注意

- グループはすべて同じ番号に、チャンネルはすべて異なる番号に設定してください。
- 別売のワイヤレスチューナユニット (WTU-1710) は、出荷時はB 1 1に設定されています。装着済みのワイヤレスチューナと同一のグループ番号に設定し直してください。

3. ワイヤレスマイクのグループとチャンネル番号をチューナユニットと同じ番号に設定します。  
設定の方法は、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

受信周波数一覧表 (下記以外の組み合わせではご使用になれません)

グループ	チャンネル	呼称	周波数 (MHz)	グループ	チャンネル	呼称	周波数 (MHz)	グループ	チャンネル	呼称	周波数 (MHz)
1	1	B11	806.125	3	1	B31	806.625	5	1	B51	807.625
	2	B12	806.375		2	B32	806.875		2	B52	808.125
	3	B13	807.125		3	B33	807.375		3	B53	808.375
	4	B14	807.750		4	B34	808.250		4	B54	808.750
	5	B15	809.000		5	B35	808.625		5	B55	809.625
	6	B16	809.500		6	B36	809.250	6	1	B61	807.250
2	1	B21	806.250	4	1	B41	806.750				
	2	B22	806.500		2	B42	807.500				
	3	B23	807.000		3	B43	808.000				
	4	B24	807.875		4	B44	809.125				
	5	B25	808.500		5	B45	809.375				
	6	B26	808.875		6	B46	809.750				

# 接続のしかた

このアンプと組み合わせるスピーカは、別売のKZ-500またはKZ-150を使用してください。  
KZ-500には、スピーカスタンドセットKZ-532が必要です。

別売 スピーカ、スピーカスタンドセットの構成

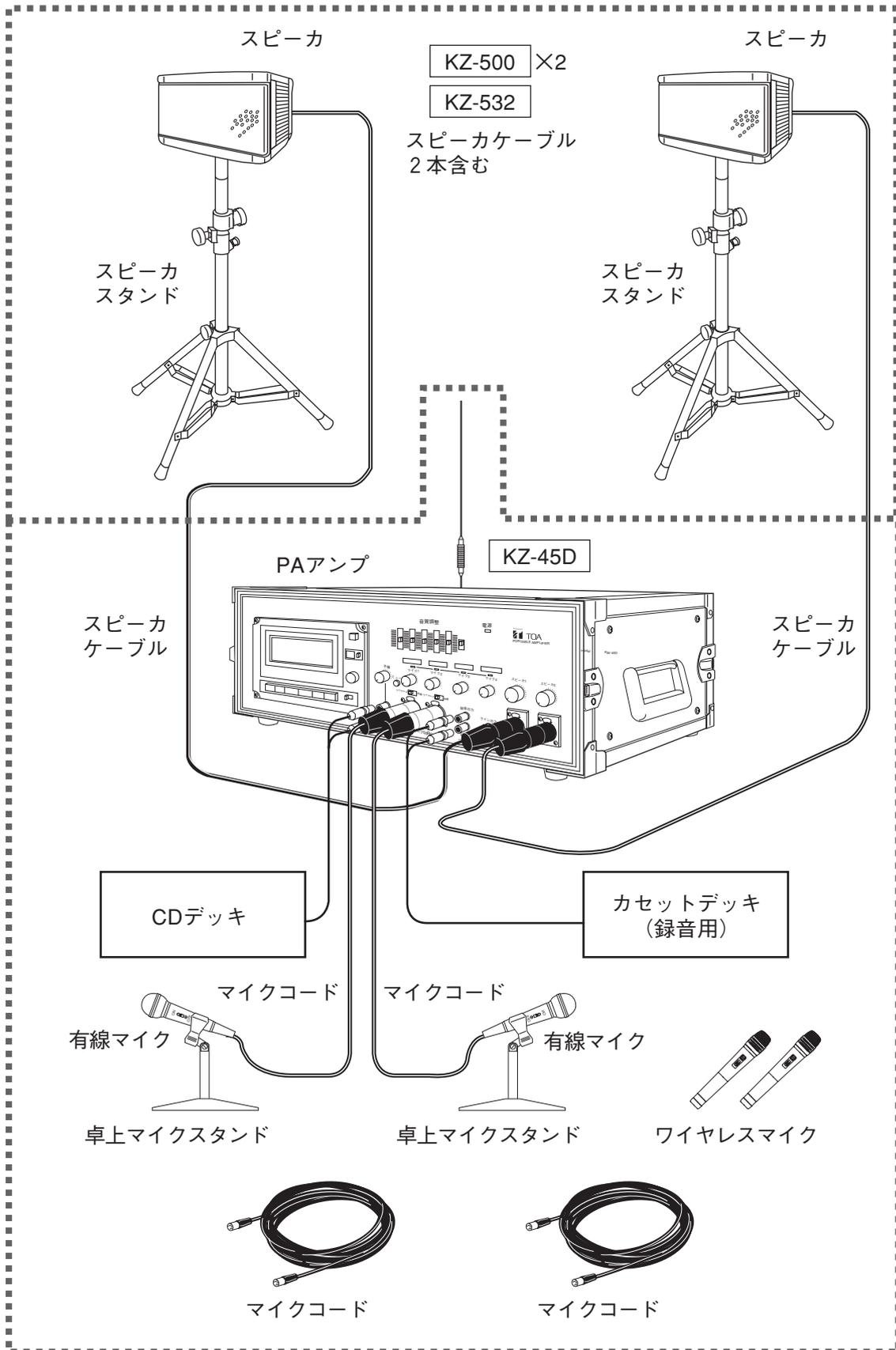
KZ-150 スピーカ、スタンドセット	
スピーカ (F-150S)	2
スピーカスタンド (F-150S用)	2
スピーカケーブル 30 m	2
キャリングケース	1

KZ-500 スピーカセット	
スピーカ (F-500S)	1
スピーカケーブル 30 m	1
キャリングケース	1

KZ-532 スピーカスタンドセット	
スピーカスタンド (F-500S用)	2
キャリングケース	1

## ■ 接続例 1

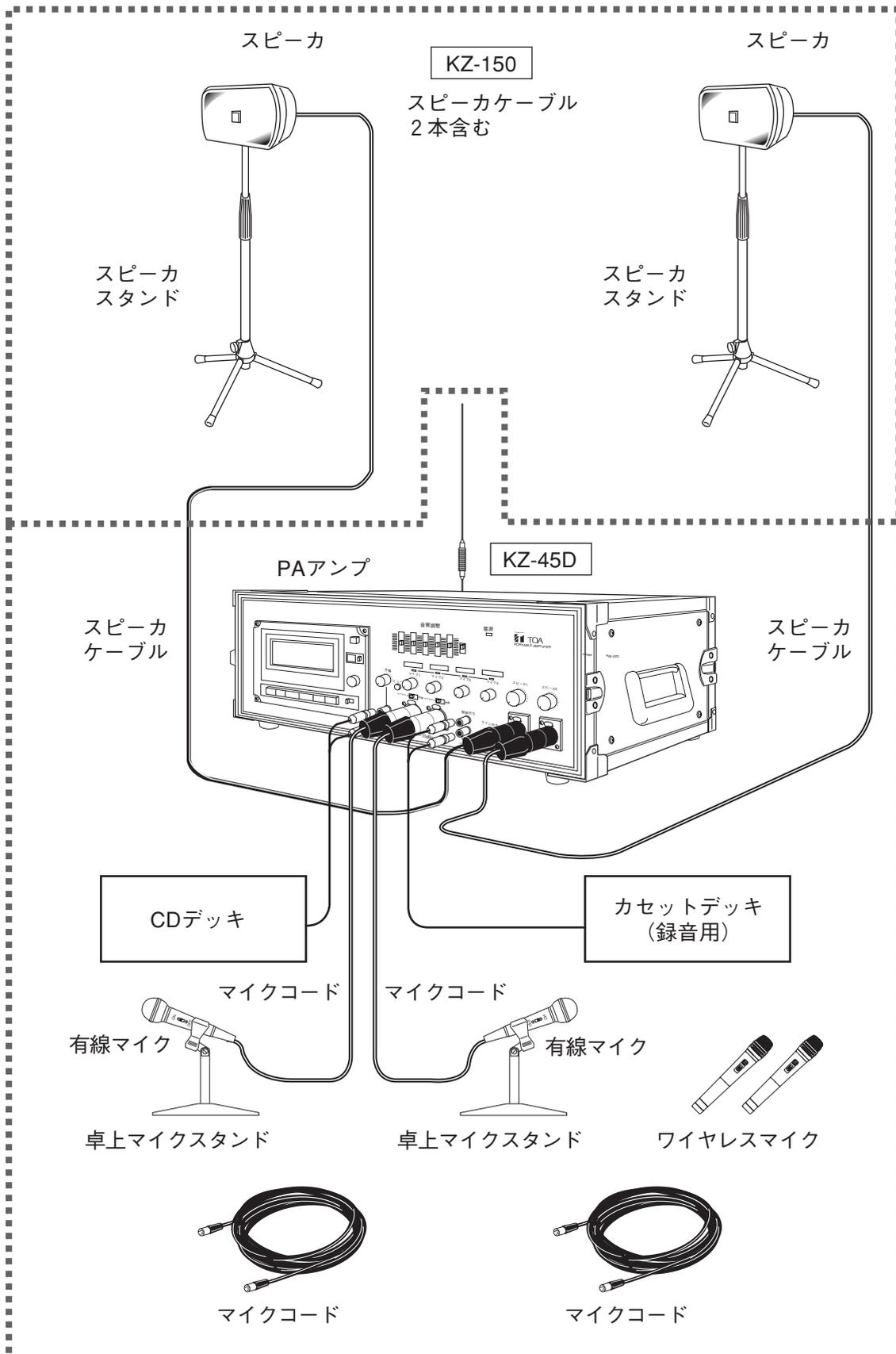
● KZ-45D、KZ-500×2、KZ-532の組み合わせ



スピーカは各スピーカ接続端子に2台まで接続できます。

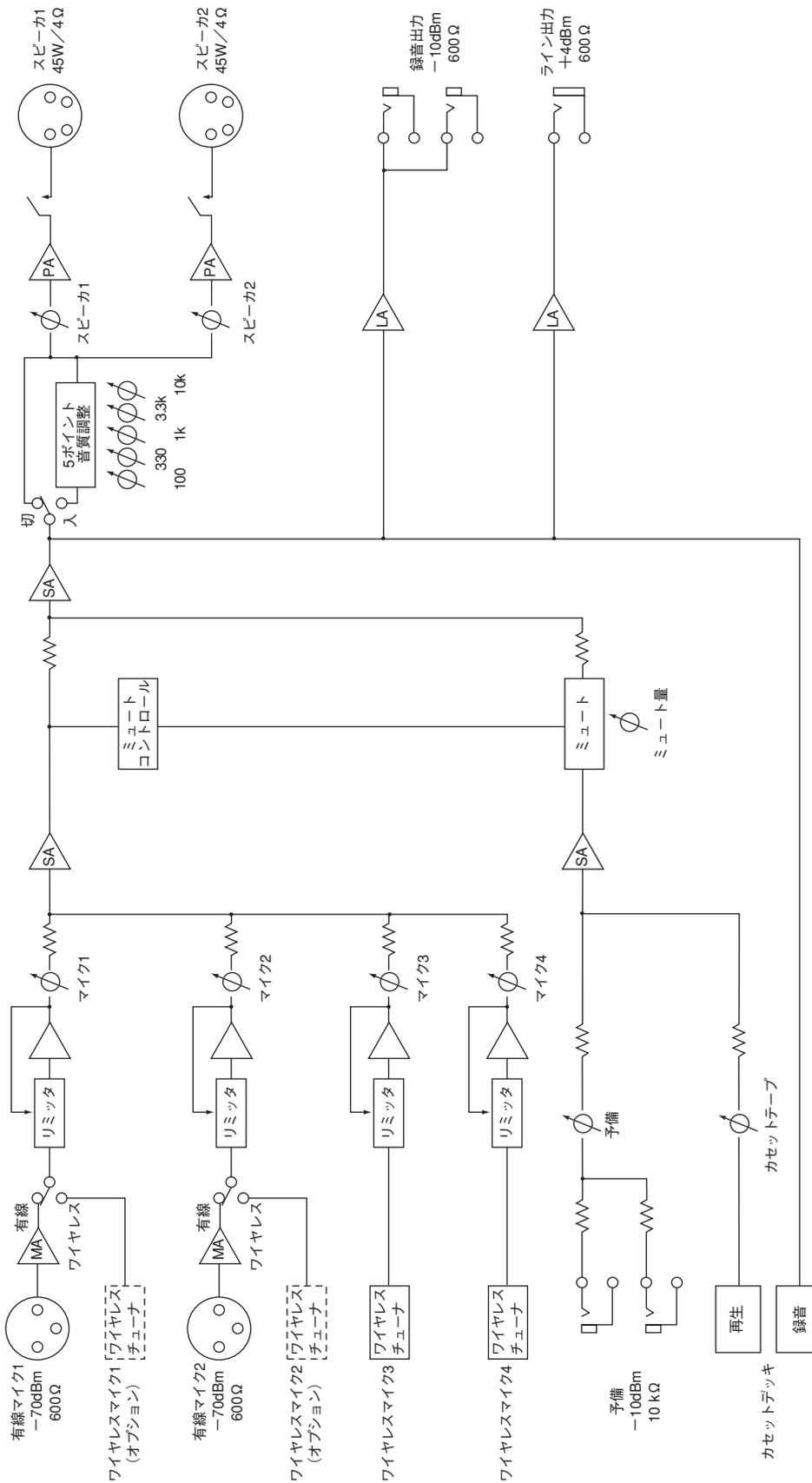
## ■ 接続例 2

### ● KZ-45D、KZ-150の組み合わせ



スピーカーは各スピーカー接続端子に2台まで接続できます。

# ブロックダイアグラム



# 仕 様

## ● アンプ

電 源	AC100 V 50/60 Hz	
消 費 電 力	185 W 定格出力時 80 W 電気用品取締法による	
定 格 出 力	45 W + 45 W (4Ω負荷時)	
入 力	マイク1, 2 : 有線マイク・ワイヤレスマイク切換式 有線マイク -70 dBm 600Ω 不平衡 キャノンXLR-3-31相当品 ワイヤレスマイク WTU-1710を組み込むことで使用可能 マイク3 : ワイヤレスマイク ワイヤレスチューナユニット WTU-1710 (B41に設定) マイク4 : ワイヤレスマイク ワイヤレスチューナユニット WTU-1710 (B42に設定) 予 備 : -10 dBm 10 kΩ 不平衡 RCAピンジャック	
出 力	スピーカ出力1, 2 : 4~8Ω キャノンXLR-4-31相当品 ライン出力 : +4 dBm 600Ω 不平衡 ホーンジャック 録音出力 : -10 dBm 600Ω 不平衡 RCAピンジャック	
音 質 調 整	100 Hz, 330 Hz, 1 kHz, 3.3 kHz, 10 kHzにおいて±10 dB可変	
機 能	リミッタ : マイク入力において過大入力時の歪みを抑制 ミュート : マイク入力信号によりカセット、予備入力の音量を自動的に下げる。 ミュート量調節ツマミ付 0~30 dB可変	
カ セ ッ ト デ ッ キ	カセット機能	オートリバース
	録音方式	交流バイアス方式
	テープ速度	4.8 cm/s
	トラック方式	2トラック 1チャンネル (モノラル)
	早送り、巻戻し時間	約100秒 (C-60テープ)
	使用テープ	ノーマルテープ
	消去方式	AC消去方式
回 転 ム ラ	0.3% WRMS以下	
仕 上	キャリングケース : アルミラミネート合板 シルバー (アルミ生地) パネル : アルミ アルマイト染色 黒	
寸 法	533 (W) × 475 (H) × 213 (D) mm	
質 量	19 kg	
付 属 品	DM-1300 …… 2, WM-1210 …… 2 YM-2130 …… 4, ST-65 …… 2, YW-510 …… 1 DM-1300, WM-1210はKZ-45D仕様です。	

本機の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

● ワイヤレスチューナ WTU-1710

受信周波数	806.125 ~ 809.750 MHz (30波の内1波)
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式

本機の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

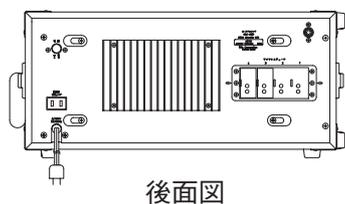
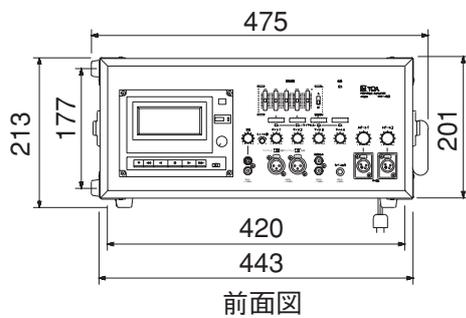
● ワイヤレスアンテナ YW-510

受信周波数範囲	806~810 MHz
ダイポール比相対利得	約 2 dB
出力インピーダンス	75Ω
定在波比	2.0以下
寸法	アンテナエレメント長さ : 395 mm コネクタ最大径 : φ15 mm
質量	約 40 g
仕上	アンテナエレメント: ステンレス 樹脂部: ポリアセタール、黒 その他: Bs、ニッケルメッキ

本機の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

## 寸法図

● アンプ部



● 収納ケース

